



□欄に数値またはコメントを記入

## 1. 建物概要

建物名称	株式会社アマダホールディングス富士宮事業所モジュール工場新築工事	BEE	1.9	BEEランク	A	★★★★
------	----------------------------------	-----	-----	--------	---	------

## 2. 重点項目への取組み度

重点項目	得点*/満点	取組み度	評価
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9 /5		ふつつ
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1 /5		ふつつ
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	4.0 /5		よい
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.0 /5		ふつつ
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4 点以上 ふつつ 3 点以上 がんばろう 3 点未満

## 3. 重点項目についての環境配慮概要

各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		内訳対応項目	
<b>"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)</b>		得点	3.9
■室内環境対策 (①室温制御/②屋光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) ①断熱材を強化し、外皮性能を向上。 ④外壁仕上げ「断熱サンドイッチパネル」の補修必要間隔30年。 ④給水汚水雑排水管の主要用途3種についてB以上で、Eは不使用。	Q-1 2 2.1 2.1.2 ①	外皮性能	
	Q-1 3 3.1 3.1.3 ②	屋光利用設備	
	3.2 3.2.1 ③	屋光制御	
	Q-2 2 2.2 2.2.1 ④	躯体材料の耐用年数	
	2.2.2 ④	外壁仕上げ材の補修必要間隔	
	2.2.3 ④	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	
	2.2.4 ④	空調換気ダクトの更新必要間隔	
	2.2.5 ④	空調・給排水配管の更新必要間隔	
	2.2.6 ④	主要設備機器の更新必要間隔	
■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) ⑤敷地内の既存樹木を保存し、生物環境の保全に配慮。	Q-3 1	⑤ 生物環境の保全と創出	
	3 3.2	⑥ 敷地内温熱環境の向上	
■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) ⑦断熱材の強化、Low-E複層ガラスの採用など、建物の熱負荷抑制に配慮。 ⑧トップライト、ハイサイドライトによる自然採光の利用。 ⑨LED照明の採用。	LR-1 1	⑦ 建物外皮の熱負荷抑制	
	2	⑧ 自然エネルギー利用	
	3	⑨ 設備システムの高効率化	
	4 4.1	⑩ モニタリング	
	4.2	⑩ 運用管理体制	
■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) ⑪節水コマ、自動水栓、省水型機器を主要水栓の過半に採用。 ⑫リサイクル資材を3品目採用。 ⑫フリーアクセスフロアの採用。 ⑬ODP=0、GWP=50未満の発泡剤を用いた断熱材を使用。	LR-2 1 1.1	⑪ 節水	
	1.2 1.2.1	⑪ 雨水利用システム導入の有無	
	1.2.2 ⑪	雑排水等利用システム導入の有無	
	2 2.1 2.1.1 ⑫	材料使用量の削減	
	2.1.2 ⑫	既存建築躯体等の継続使用	
	2.1.3 ⑫	躯体材料におけるリサイクル材の使用	
	2.1.4 ⑫	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	
	2.1.5 ⑫	持続可能な森林から産出された木材	
	2.1.6 ⑫	部材の再利用可能性向上への取組み	
	3 3.1	⑬ 有害物質を含まない材料の使用	
	3.2 3.2.1 ⑬	消火剤	
	3.2.2 ⑬	断熱材	
	3.2.3 ⑬	冷媒	
■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) ⑭運用時のLCCO2排出量を低減。 ⑮アマダデータにより風環境を把握。	LR-3 1	⑭ 地球温暖化への配慮	
	2 2.2	⑮ 温熱環境悪化の改善	
<b>"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)</b>		得点	3.1
■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) ⑰通信手段の多様化、地下空間への設置回避、無停電装置の計画。	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯	耐震性	
	2.1.2 ⑯	免震・制振性能	
	2.4 2.4.1 ⑰	空調・換気設備	
	2.4.2 ⑰	給排水・衛生設備	
	2.4.3 ⑰	電気設備	
	2.4.4 ⑰	機械・配管支持方法	
	2.4.5 ⑰	通信・情報設備	
<b>"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)</b>		得点	4.0
■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) ⑳壁長さ比率を小さくすることにより空間のゆとりに配慮。	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲	ユニバーサルデザイン計画	
	3 3.1 3.1.1 ⑲	階高のゆとり	
	3.1.2 ⑲	空間の形状・自由さ	
■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) ⑲建物利用者の設計プロセスへの参加。	Q-3 3 3.1	⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
<b>"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)</b>		得点	3.0
■室外環境(敷地内)対策 (⑳生物環境の保全と創出/㉑まちなみ・景観への配慮/㉒敷地内温熱環境の向上) ㉒敷地内の既存樹木を保存し、生物環境の保全に配慮。	Q-3 1	⑳ 生物環境の保全と創出	
	2	㉑ まちなみ景観への配慮	
	3 3.2	㉒ 敷地内温熱環境の向上	
■敷地外環境対策 (⑳温熱環境悪化の改善) ⑳隣棟間隔指標Rwを0.5以上とし、風の回復に配慮。	LR-3 2 2.2	⑳ 温熱環境悪化の改善	